

# 高岡の仏壇

## 【産地の特色】

高岡の仏壇は、慶長年間に指物師・大場庄左衛門が高岡に移り住み、家具に漆塗装を行ったとする記録があることから、このころが高岡における仏壇製造の始まりとされている。その後、天保年間（1830～1844）に仏壇塗師・高森重次郎の活躍等により、現在の高岡仏壇の基礎が確立されたものと考えられている。

高岡は仏教への信仰心が篤い地域であり、当産地では江戸時代から現代まで、仏壇産業が持続的に発展してきた。

伝統的な高岡仏壇は、材料として柱にクサマキ（青森ヒバ）材を、板にイチョウ材を使用する。また、高岡銅器の彫金ちようきんの技術を受け継ぎ、装飾性に優れた金具の使用箇所が多いことも特徴である。さらに、彫刻を多く用い、金箔が仏壇内部の全面に箔押しされた、荘厳かつ華やかな金仏壇が主流である。

また、伝統的な漆塗りの技術を継承し、蒔絵まきえや組子くみこを手掛ける職人も製造に携わるなど、高岡の漆工、木工、金工の技術の粋を集めた総合芸術ともいえるものである。

平成 25 年に富山県伝統的工芸品の指定を受けている。

※本稿では高岡以外の産地で生産されたものであっても、伝統的な高岡仏壇の様式に則って製作された高岡型仏壇も含めて「高岡仏壇」と呼称している。

## 【動向】

令和 2 年度の仏壇販売額は、約 7 億 8 千万円であり、対平成 30 年度比 4.3%増加している。しかしながら、1 社あたり販売額で見ると令和 2 年度は約 60,250 千円と平成 30 年度の 93,837 千円から減少している。

地域別の販売先割合は、高岡市内が 23.2%であり、高岡市内を含め富山県内が 95.7%であった。

今回調査より、昨今の生活様式の変化等に伴う販売動向の変化を把握するため、仏壇の様式に関する項目を調査した結果、「高岡仏壇」の販売割合は 21.1%、「その他の金仏壇」の販売割合は 17.9%、「唐木仏壇からき」の販売割合は 4.7%、「家具調仏壇」の販売割合は 28.9%であった。このことから、相対的に安価な現代仏壇の販売割合が高い傾向にあるとわかった。

伝統的な高岡仏壇は、修理を重ねながら世代を越えて受け継がれるものとされてきたが、今後は現代の住宅様式に適応したデザインの新商品開発や、寺院建築に係る修復等、新たな需要開拓も必要であると考えられる。

## 高岡の仏壇

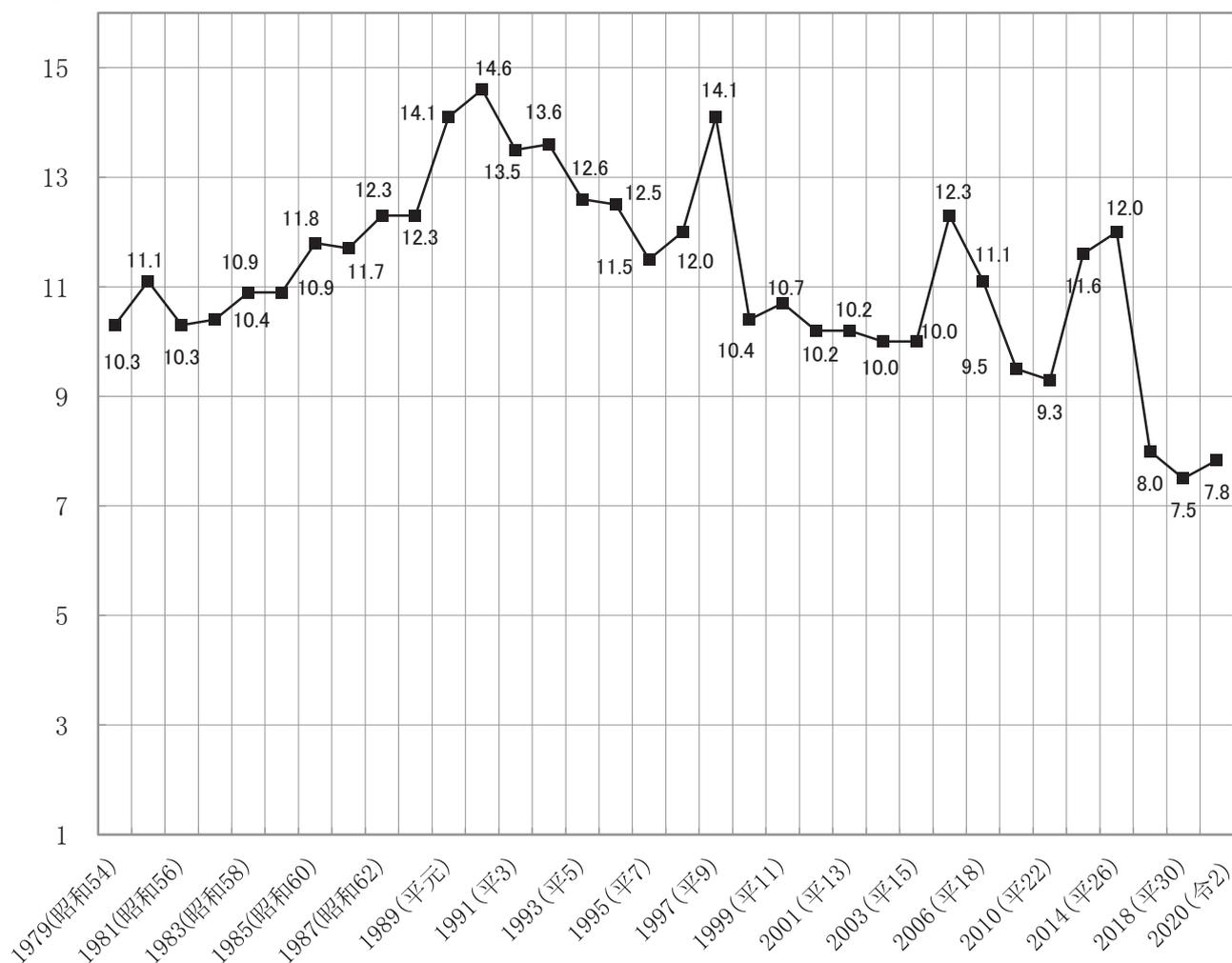
【仏壇販売額の推移】(単位:千円、%)

年	販売額	前回比
2012(平24)	1,168,969	—
2014(平26)	1,203,995	103.0
2016(平28)	801,427	66.6
2018(平30)	750,699	93.7
2020(令2)	783,260	104.3

【品種別販売額】(単位:千円、%)

品種	2020(令2)	構成比
高岡 仏壇	165,358	21.1
その他金仏壇	140,158	17.9
唐木 仏壇	36,933	4.7
家具調仏壇	226,523	28.9
修繕等	169,800	21.7
仏壇以外(神棚等)	44,487	5.7
計	783,260	100.0

(億円)

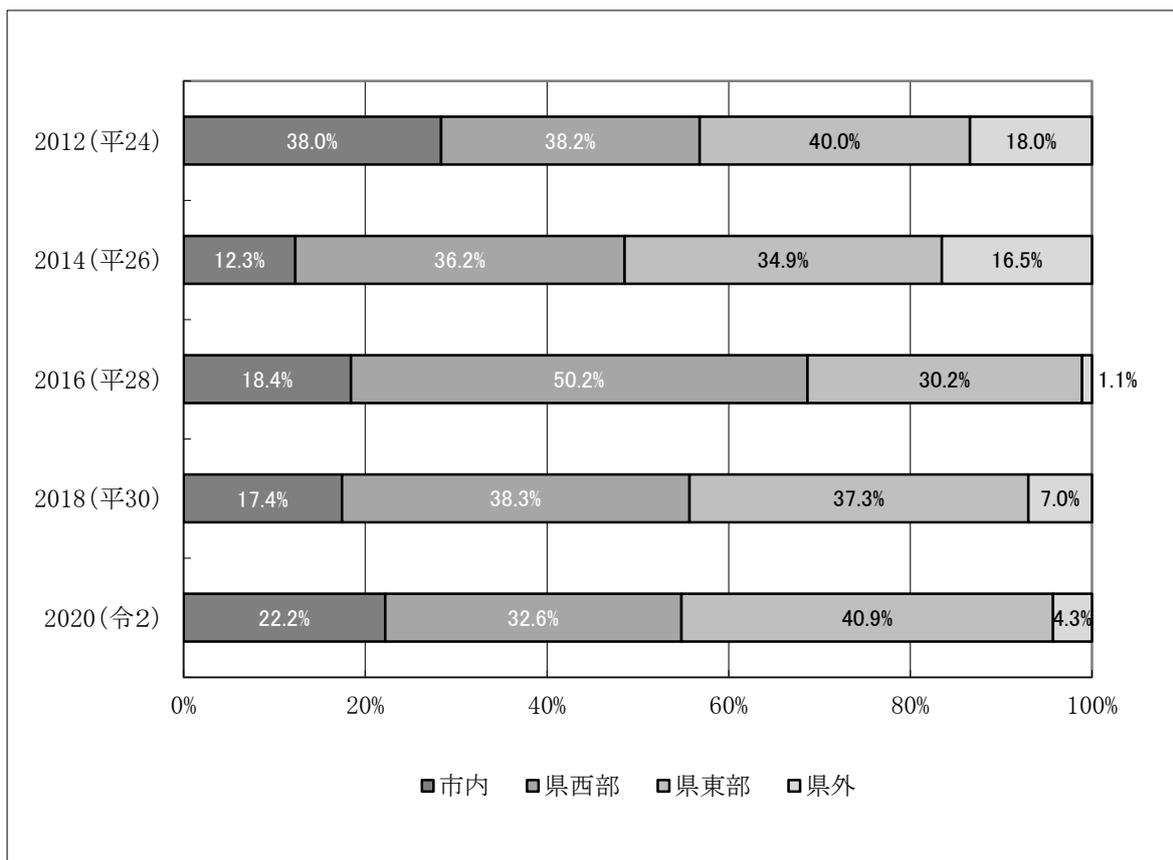


【事業所数と従事者数】

業種	2020(令和2年)		2018(平成30年)		前回比(%)	
	事業所数	従事者数	事業所数	従事者数	事業所数	従事者数
製造販売業	13	99	8	68	162.5	145.6

## 高岡の仏壇

【地域別販売先割合の推移】



【製造販売業従事者の年齢構成割合の推移】

